

【提出様式】

社会資本整備総合交付金チェックシート

地方整備局名 近畿 都道府県名 福井県 市町村名 あわら市 地区名 JR 芦原温泉駅賑わい交流地区

I. 目標の妥当性

チェック欄

①都市再生基本方針との適合等	
1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。 (該当するものに○) 1. 中心市街地活性化 2. 防災 3. 少子高齢化 4. 人口定着 5. 観光・交流 6. アメニティ 7. 交通利便性 8. 都市活力 9. 地域コミュニティ 10. その他	✓
2) 上位計画等と整合性が確保されている。 (該当するものに○) 1. 市町村総合計画 2. 都道府県長期計画 3. 都市再生緊急整備地域 4. 地域再生計画 5. 被災市街地 6. 中心市街地活性化計画 7. 歴史的風致維持向上計画 8. 低炭素まちづくり計画 9. 立地適正化計画 10. その他	✓
②地域の課題への対応	
1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標を設定している。	✓
2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置付けが高い。	✓

II. 計画の効果・効率性

③目標と事業内容の整合性等	
1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	✓
2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	✓
3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	✓
4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	✓
5) 地域資源の活用やハードとソフトの連携等を図る計画である。	✓
④事業の効果	
1) 十分な事業効果が確認されている	✓
2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	✓

III. 計画の実現可能性

⑤地元の熱意	
1) まちづくりに向けた機運がある。	✓
2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	✓
3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	✓
⑥円滑な事業執行の環境	
1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	✓
2) 交付期間中の計画管理（モニタリング）を実施する予定である。	✓
3) 計画について住民等との間で合意が形成されている。	✓

【提出様式】

事業効果分析結果シート

地方整備局名	都道府県名	市町村名	地区名
近畿	福井県	あわら市	J R 芦原温泉駅賑わい交流地区

○事業効果の分析について

選 択 欄 (該当するものに○)	事業効果の分析方法	分析結果		
	① 1世帯当たりの事業費を示し、住民の賛同を把握した。	総事業費/世帯 (円)		賛同率 (%)
	② 事業全体の便益をCVM法を用い把握した	便益 (B) (百万円)	費用 (C) (百万円)	費用便益比 (B/C) ※1
○	③ その他の方法 (個別事業単位でのB/C) で把握した。	※下表に記入のこと		
	④ 交付対象事業費が10億円未満。			

その他の方法 (個別事業単位でのB/C) の場合

事業区分	施設名 (箇所名/路線名など)	事業費 (百万円)	費用便益分析の実施状況 (該当するものに○)※2				便益(B) (百万円)	費用(C) (百万円)	費用便益比 (B/C) ※1、※3
			継続事業の場合		新規事業の場合				
			A	B	C	D			
道路	市道 105 号線	250		○				1.00	
道路	市道 105 号線 (電線共同溝)	110				○		1.00	
道路	市道 1117 号線	9		○				1.00	
道路	市道 171 号線	32		○				1.00	
地域生活基盤施設	西口広場	89		○				1.00	
地域生活基盤施設	東口広場	167		○				1.00	
地域生活基盤施設	駅西口駐車場	191		○				1.00	
高質空間形成施設	照明施設	17				○		1.00	
高次都市施設	賑わいホール (地域交流センター)	697				○		1.00	
高次都市施設	観光案内・魅力体感施設 (観光交流センター)	392				○		1.00	
事業活用調査	事業効果分析	2				○		1.00	
まちづくり 活動推進事業	ワークショップ (駅周辺西口部)	4				○		1.00	
合 計		1,960							1.00

注) ※1 費用便益比は四捨五入により小数点以下第2位まで記入

※2 及び ※3 の記入要領

ケース	※2 の該当区分	※3 への記入方法
A	事業が継続事業で、費用便益分析を実施済みのもの。	費用便益比(値)を記入
B	事業が継続事業で、事業評価制度導入前の採択のため、費用便益分析を実施していないもの(ただし再評価の実施要件に該当していないもの)。	「1.00」を記入
C	事業が新規事業で、それぞれの事業毎の既往の方法により費用便益分析を実施したもの。	費用便益比(値)を記入
D	費用便益分析手法が開発されていないため、費用便益分析を実施しないもの。	「1.00」を記入

○民間投資等による波及効果について

事業名	事業主体	全体事業費 (百万円)	規 模	確 認 の 方 法

【市町村控え】

「目標を定量化する指標と事業の関係検証シート」

都道府県名	市町村名	地区名
福井県	あわら市	JR 芦原温泉駅賑わい交流地区

まちづくりの目標：

大目標『北陸新幹線芦原温泉駅の現駅併設を見据え、定住環境の向上を図りながら、市民と来訪者が集い、ともに憩えるエリアとして駅周辺にさらなる賑わいを創出する。』

目標 1：交通結節点、魅力情報発信の機能強化

目標 2：安心で安全な人にやさしい街・道路の整備

目標 3：地域内のコミュニティ活動の促進

整備方針	対応関係	事業名・箇所名	目標を定量化する指標			
			指標 1	指標 2	指標 3	指標 4
			駅前商店街の空き店舗数	駅周辺整備に関する満足度	JR 芦原温泉駅乗車客数	駅前広場利用者数
1. 交通結節点、魅力情報発信の機能強化	(基幹事業)					
	道路(市道 105 号線)	×	○	△	△	
	道路(市道 105 号線(電線共同溝))	×	○	△	△	
	道路(市道 1117 号線)	×	○	△	△	
2. 安全安心な街、道路整備	道路(市道 171 号線)	×	○	△	△	
	地域生活基盤施設(西口広場)	△	○	○	△	
	地域生活基盤施設(東口広場)	△	○	○	△	
3. 地域内のコミュニティ活動の促進	地域生活基盤施設(駅西口駐車場)	△	○	○	○	
	高質空間形成施設(照明施設)	△	○	△	△	
	高次都市施設(賑わいホール(地域交流センター))	△	○	○	○	
	高次都市施設(観光案内・魅力体感施設(観光交流センター))	△	○	○	○	
	(提案事業)					
	まちづくり活動推進事業(ワークショップ等)	△	○	×	○	

表 指標と事業の関係シート基準

評価の基準	結果の記載
事業が指標の直接的改善になる。	○
事業が指標を直接改善しないが、間接的に改善することが見込まれる。	△
事業を行っても指標の直接的、間接的改善につながらない。	×

【市町村控え】

都市再生整備計画の妥当性検証シート

※この様式は、市町村が自ら都市再生整備計画の妥当性を検証するためのチェックシートであり、国への提出様式ではありません。

地方整備局名	都道府県名	市町村名	地区名
近畿	福井県	あわら市	J R 芦原温泉駅賑わい交流地区

I. 目標の妥当性

①都市再生基本方針との適合等	チェック欄	内容欄
<p>1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。</p> <p>1. 中心市街地活性化 2. 防災 3. 少子高齢化 4. 人口定着 ⑤. 観光・交流 6. アメニティ ⑦. 交通利便性 ⑧. 都市活力 ⑨. 地域コミュニティ 10. その他</p>	✓	<p>・北陸新幹線芦原温泉駅の現駅併設を見据え、定住環境の向上を図りながら、市民と来訪者が集い、ともに憩えるエリアとして駅周辺にさらなる賑わいを創出する。</p>
<p>2) 上位計画等と整合性が確保されている。</p> <p>①. 市町村総合計画 2. 都道府県長期計画 3. 都市再生緊急整備地域 4. 地域再生計画 5. 被災市街地 6. 中心市街地活性化計画 7. 歴史的風致維持向上計画 8. 低炭素まちづくり計画 ⑨. 立地適正化計画 10. その他</p>	✓	<p>1. 第2次あわら市総合振興計画 (平成28年3月策定) 【計画期間：平成28年～平成37年度】</p> <p>9. あわら市立地適正化計画 (平成29年3月策定) 【目標年次：2040年】</p>
②地域の課題への対応	チェック欄	内容欄
<p>1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標を設定している。</p> <p>・地域の課題とまちづくりの目標の整合性について、記入する。</p>	✓	<p>・これまで実施してきた事業による地域の魅力、市民のまちづくりに対する意識をさらに向上させ、持続的な賑わいと市民の交流を創出する必要がある。</p> <p>・今後の新幹線駅開業に向け、道路、交通広場、駐車場、賑わい空間など、必要なインフラ整備はもとより、交通結節点、魅力情報発信のさらなる機能強化が急務となっている。</p>
<p>2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置付けが高い。</p> <p>・都市再生緊急整備地域 ・地域再生計画 ・被災市街地復興推進地域 ・中心市街地活性化基本計画 ・歴史的風致維持向上計画 ・低炭素まちづくり計画 ○立地適正化計画 ・その他</p>	✓	<p>計画書名・発行年</p> <p>・あわら市立地適正化計画 (平成29年3月策定) 【目標年次：2040年】</p>

II. 計画の効果・効率性

③目標と事業内容の整合性等	チェック欄	内容欄
<p>1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> まちづくりの目標と指標の整合性について、記入する。 まちづくりの目標と数値目標の整合性について、記入する。 まちづくりの目標を表現する指標・数値目標の設定の工夫があれば、記入する。 	✓	<ul style="list-style-type: none"> 「目標を定量化する指標と事業の関係検証シート」のとおり、整合性は確保されている。
<p>2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指標・数値目標と事業内容の整合性について、記入する。 	✓	<ul style="list-style-type: none"> 当地区の課題を解決するため、4つの指標を設定し、「目標を定量化する指標と事業の関係検証シート」のとおり、指標・数値目標と事業内容の整合性は確保されている。
<p>3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標及び事業内容と計画区域との整合性について、まちづくりの集中と選択がなされているかを記入する。 	✓	<ul style="list-style-type: none"> 計画区域は立地適正化計画の都市機能誘導区域であり、事業内容との整合性が確保されている。
<p>4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 客観的な指標・数値目標の市民理解の可能性について、記入する。 	✓	<ul style="list-style-type: none"> 商店街の空き店舗数、駅周辺整備に関する市民満足度、JR 芦原温泉駅乗降客数、駅前広場利用者数という分かりやすい統計結果や、駅周辺を訪れた際に実感できるものを、指標・数値目標としているため、市民の理解が得やすいものとなっている。
<p>5) 地域資源の活用やハードとソフトの連携等を図る計画である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 既存の枠組みにとらわれない先導性 地域資源を活用した事業 既存施設の有効活用・再生利用 ハード事業、ソフト事業連携で効率的実施 他省庁事業や民間事業を関連事業で連携 住民・NPO等のまちづくり活動と協働 その他 	✓	<ul style="list-style-type: none"> 賑わいホール（地域交流センター）は、市民や観光客が集い、憩い、交流するための新たな空間であり、この空間を活用した地域住民主催のイベントやまちづくり活動の拡大を図るものである。
④事業の効果	チェック欄	内容欄
<p>1) 十分な事業効果が確認されている</p> <ul style="list-style-type: none"> 費用対効果の分析結果について、「費用対効果分析シート」より、分析手法（①から④）をチェック欄に、分析結果（賛同率、費用便益比）を記入する。 	✓	<ul style="list-style-type: none"> 費用便益分析が必要となる対象事業はない。
<p>2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基幹事業間、基幹事業と提案事業及び基幹事業と関連事業間の相乗効果による、目標の達成の可能性向上について記入する。 事業地区の周辺や関連する事業領域への波及効果の見込みについて記入する。 民間企業等の投資の見込みがあれば内容等を略記する。 	✓	<ul style="list-style-type: none"> 道路と地域生活基盤施設の整備により、駅や駅周辺へのアクセス性の強化や、交通機関の乗り換えの円滑化を図り、目標達成の可能性を向上させる。 高次都市施設の整備に向けてワークショップを開催し、賑わい空間の活用の検討を行う中で、駅周辺エリアを含めた修景緑化等の取組へと発展させるなど、事業地区周辺への波及効果が期待できる。

Ⅲ. 計画の実現可能性

⑤地元の熱意	チェック欄	内容欄
1) まちづくりに向けた機運がある。 ・地元のまちづくりに向けた機運について、記入する。	✓	・駅周辺のまちづくりについて、平成 28 年度に市民ワークショップ(約 60 人×2 回)や、芦原温泉駅周辺将来デザイン市民投票(約 400 人が参加)を開催するなど、まちづくりに向けた機運が醸成されている。 ・平成 30 年 7 月に策定した「芦原温泉駅周辺まちづくりプラン」を市民等に広く周知することで、まちづくりに向けた機運の継続を図っている。
2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。 ・事業内容についての住民等の協力があれば、具体的に記入する。	✓	・住民・民間事業者等と協議し策定した芦原温泉駅周辺まちづくりプランの内容を反映するために都市再生整備計画の変更を行っている。 ・道路や広場、駐車場の整備にあたっては、土地・建物所有者の理解を得て、円滑な事業遂行が可能となっている。
3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。 ・住民等のまちづくり活動の実績があれば、具体的に記入する。 ・事業終了後の継続的なまちづくりの予定について記入する。	✓	・芦原温泉駅周辺の自治会や各種団体の代表等で構成される「景観まちづくり協議会」が平成 26 年 11 月に設立され、駅周辺の修景緑化活動等を行っている。 ・駅西口周辺に整備された金津本陣にぎわい広場では、平成 28 年度から地域住民が主催する定期的なイベントが開催されるなど、駅周辺の賑わい創出に寄与している。
⑥円滑な事業執行の環境	チェック欄	内容欄
1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。 ①. 都市計画決定、事業認可手続き済み ②. 市町村議会への報告、了解 ③. 計画区域内の住民の合意 ④. 関連事業等の施行予定者の同意 ⑤. その他	✓	1 : 都決手続き済 2 : 議会への報告済 3 : 地元説明会等で説明済 4 : 新幹線駅舎整備の事業主体である鉄道・運輸機構の同意済 5 : 関連事業には記載していないものの、隣接する県道整備と事業連携を図っている。
2) 交付期間中の計画管理（モニタリング）を実施する予定である。 ①. モニタリング ②. 庁内モニタリング組織 3. まちづくり協議会 4. 継続的広報 5. その他	✓	・担当課がモニタリングを実施する予定である。

<p>3) 計画について住民等との間で合意が形成されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民等との計画合意について記入する。 ・広報誌等による住民側へ周知を行っている場合、具体的に記入する。 ・説明会等による住民側へ説明を行っている場合、具体的に記入する。 	<p>✓</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年7月に策定した芦原温泉駅周辺まちづくりプランを、各種団体や住民の代表や等で組織される「あわら市地域ブランド戦略会議」に提言した。 ・市広報紙（平成30年7月号）において、上記のまちづくりプランの概要を掲載した。
--	----------	--